

令和7年度自己評価表【目標】

鳥取県立鳥取緑風高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成 2 夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成 3 社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成 4 基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上 5 生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実 6 自律性を伴った、生徒の自主性の育成 7 自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成 8 授業・スクーリングを通した論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力の育成	今年度の重点目標	1 基本的な生活習慣の定着を促す。 2 生徒が主体的に取り組む授業づくり、深い学びにつながる授業づくりに努める。 3 個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実を図る。 4 視野を広げ、他者と協力する体験活動により周囲と豊かな人間関係を築く豊かな心を育成する。
-------------------	---	----------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
基本的生活習慣の定着	生活の自律	○多くの生徒が時間を厳守した行動ができている中、決められた時間に行動できていない生徒も若干名いる。 ○教室等の環境整備は、普段の清掃などによりきれいに保たれている。 ○廊下のゴミ出しの状況等をみると、ゴミの分別等環境配慮行動に対する意識は、まだ十分とは言えない。 ○定期的な生徒個人ロッカー内の点検と整理指導により、私物の管理が身に付きつつある。 ○就寝時刻が遅い生徒が多い。(R6：午前0時以降就寝が63%) ○スマートフォンやゲームの使用時間が長い生徒がいる。(R6：1日6時間以上の割合が25%) ○むし歯保有率は県平均と比較すると非常に高く、継続治療による保有率低下が必要。(県平均保有率14%、R6：本校保有率55%、治療率18%)	○規則正しい生活を送ることができている。 ○基本的生活習慣（時間・挨拶・マナー等）について考え、行動できている。 ○廊下のゴミ出しの状況等をみると、ゴミの分別等環境配慮行動に関する意識は、まだ十分とは言えない。 ○定期的な生徒個人ロッカー内の点検と整理指導により、私物の管理が身に付きつつある。 ○就寝時刻が遅い生徒が多い。(R6：午前0時以降就寝が63%) ○スマートフォン等の使用時間が6時間以上の割合が20%以下になる。 ○むし歯保有率は県平均と比較すると非常に高く、継続治療による保有率低下が必要。(県平均保有率14%、R6：本校保有率55%、治療率18%)	○積極的な日常の声かけや挨拶、丁寧な面談をとおしてコミュニケーションの具体例（対人関係における挨拶や対話）を提示し、習慣づけに努める。 ○身の周りの整理、整頓、ゴミ分別の徹底を指導し、環境美化に努める。 ○【緑チャレ】との連動も意識した日常の声かけや面談をとおし、基本的生活習慣の指導を行う（緑チャレ：5月生活習慣、11月食生活）。 ○ライフスタイル調査による生活実態の的確な把握と分析を行い、基本的生活習慣定着が不十分な生徒については、個別の声かけや指導を粘り強く行う。			
	個に応じた学力の向上	○進路指導部と各年次や部課程とが連携し、進学希望者には課外指導や模試を活用しつつ指導・助言を行っている。就職希望者にはCA面談や【まなトレ】等でコミュニケーション能力や基礎学力の向上を図っている。 ○[多くの授業は、ICT機器などを使用し、工夫されていてわかりやすい。]に肯定的回答した生徒の割合は90.4%、[先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問にいてねいに応じてくれる。]については95.6%である。 ○【まなトレ】の取り組み内容においては多少の課題を感じつつも、互いに教えあう姿も見られ、学習意欲の醸成にも繋がっている。 ○昨年度の年間単位修得率は定時制74.8%、通信制90.6%である。	○進路を意識して学習に取り組む中で、基礎学力を高めることができている。 ○特に卒業予定生は、上級学校の入学試験や就職試験に対応できる学力を身につけている。 ○[多くの授業は、ICT機器などを使用し、工夫されていてわかりやすい。]に肯定的回答する生徒の割合が80%以上である。 ○社会生活をより良く営むために必要な基礎学力を身につけている。 ○授業を欠席しない環境を醸成することで、単位修得率の向上をめざす。(定時制70%以上、通信制75%以上の継続)	○生徒個々の進路希望を把握し、進学希望の生徒は、課外指導や個々に合った模試を計画的に活用するよう、引き続き進路指導部と年次、部課程が連携し支援する。 ○就職希望の生徒については、CA面談や各種の進路行事に確実に参加するよう指導する。 ○ICT機器を活用した授業実践や公開授業の促進により、生徒が主体的に取り組み、深い学びにつながる授業の工夫・充実に努める。 ○【まなトレ】や課外指導により基礎学力向上を図り、生徒が将来の生き方を見つめる一助となるように努める。 ○毎日の声かけや年間6回の生徒面談を行う。また、教職員間の情報交換を頻繁に行うことで生徒理解に努め、個別のきめ細かい指導を行う。			
生徒が主体的に取り組む授業づくり、深い学びにつながる授業づくり	意欲向上と自信づくり	○進路ガイダンスや個別の面談による指導で、卒業予定生のみならず低年次生のオープンキャンパス参加者が増えている。 ○[生徒は将来の進路について考えている]・[将来働いてみたいと思う仕事がある。]に肯定的回答する保護者・生徒の割合が平均で約7割である。 ○特別支援教育支援員のサポートにより、生徒が安心して授業に取り組んでいる。 ○資格取得を促し、【まなトレ】を活用しての準備学習を行っているが、受験する生徒は多くはない。 ○[鳥取緑風高校での高校生活は全体的に満足できる。]に肯定的回答した生徒の割合は92.3%である。 ○外部講師による授業やガイダンス・体験活動は、生徒の学ぶ意欲向上につながり、オープンキャンパスへの参加も増えた。	○生徒が積極的にガイダンス、進路相談会、体験活動等に参加し、将来の進路を意識した生活を送っている。 ○[生徒は将来の進路について考えている。]・[将来働いてみたいと思う仕事がある。]に肯定的回答する保護者・生徒の割合が平均で75%以上である。 ○各種資格試験、検定等の合格をめざし、積極的に学習に取り組んでいる。 ○[鳥取緑風高校での高校生活は全体的に満足できる。]に肯定的回答する生徒の割合が75%以上である。	○生徒の実態や課題に即した講演内容や講師選定、体験活動の推奨を行う。 ○計画的な進路学習を実施し、年次ごとに生徒の自己理解、職業理解を進める。 ○各種資格・検定試験の一覧を提示し、担任、スモールチャレンジ担当者の面談等で受検を意識した助言を行う。 ○特別支援教育支援員による授業サポートや、学生教育ボランティア（緑風ソシオ）による学習指導補助等とおして、学習意欲の向上に努める。			

個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実	生徒の内面を理解しそれを生かした指導	○生徒への日常的な声かけや継続した担任による面談（6回以上）、SC面談などを行い、生徒理解に役立っている。 ○各部課程・各年次での生徒情報交換と、SC・SSW連絡会を定期的に実施している。また、個別支援ケースについては対応策を職員間で協議し、共通理解をはかり実践に生かしている。 ○「専門医による相談会」を実施し医療機関との連携をはかり、一定の成果が表れている。 ○〔先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問に丁寧に応じてくれる。〕に肯定的回答した生徒の割合が95.6％である。	○情報を共有しながら発達課題に応じた具体的かつ現実的な支援を行い、生徒が自立へと努力している。 ○全生徒に対し、担任等による面談を年間6回以上実施するとともに保護者懇談会等を活用し保護者との連携に努める。 ○前年度に比べて不登校（年間30日以上）の欠席）率の改善が見られる。 ○〔先生は、生徒からのさまざまな相談や学習の質問に丁寧に応じてくれる。〕に肯定的回答した生徒の割合が80％以上を継続している。	○担任等による面談（定時制課程年間6回以上）や様々な場面をとらえ、生徒一人ひとりとのかかわりを大切にした指導に努める。 ○教育相談係会を隔週、SC・SSW連絡会を毎月持つことによって、個々の課題に向けた丁寧なアセスメントや具体的な支援策を策定し実行に移していく。 ○校内支援委員会を活用した組織的な支援により、各部課程をこえた情報共有と個別支援ケースの進捗状況を把握・検討する。 ○医療機関などの各種外部専門機関と連携した支援体制を充実させる。			
	自立をめざす生徒指導	○多くの生徒が挨拶を心がけ、お互いを思いやって過ごす雰囲気が醸成されてきている。 ○〔私は、ルールやマナーを意識した行動をとるように心がけている。〕に肯定的回答した生徒の割合は94.3％である。 ○問題行動等に対しては、年次、分掌等の関係者が連携を密にしながら生徒指導に取り組めている。 ○担任や進路指導部による継続的な面談は、生徒の自己理解促進やキャリア設計能力、社会性育成の一助となっている。 ○【チャレンジシート】の活用は一定の役割を果たしつつも、全体には及んでいない。 ○就職活動をする生徒の大半は、様々な進路行事へ出席することで就労への意識を高めている。	○社会で通用する行動・ルールやマナーの向上の指導をとおして、お互いを思いやる心や自律性と自主性が身につけている。 ○〔私は、ルールやマナーを意識した行動をとるよう心がけている。〕に肯定的回答した生徒の割合が80％以上を継続している。 ○生徒の進路意識が高まり、自分の進路目標に向け積極的に行動している。 ○【チャレンジシート】を活用し、自分の設定した目標に向けて、スモールステップを積み重ねて課題を意識し改善しようと努力している生徒の割合が80％以上である。 ○通級指導などの個別指導において、自分のことを理解し自分らしく生きていけるような力を身につけている。	○生徒一人ひとりとの関わりを大切にした声かけや挨拶を交わし、他者を思いやるような言動ができるよう努める。 ○規範意識が身につくよう、ルールやマナーについて適宜指導する。 ○いじめアンケートを活用し、いじめのみならず、問題行動等の未然防止、早期発見に努める。 ○問題行動など様々な課題を抱える生徒に対し、教職員と外部の専門機関とが連携し、適切な関わりを粘り強く行う。 ○進路ガイダンス、進路探究、CA面談等で自己理解、職業理解を深めさせ、生徒に将来の進路について継続的に考えさせる。 ○毎週月曜日のSHR後をスモールチャレンジタイムとし、クラス単位で教員が関わるやり方にする。 ○通級指導や職場見学、就労体験等をとおして、社会生活を送る上で必要な力を育成する。			
視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実	体験活動の活用	○「TEASⅡ」（鳥取県版環境管理システム）の環境改善目標は概ね達成できている。 ○緑風祭や球技大会など、生徒会執行部が中心となり企画・運営ができた。 ○定通総体では、卓球部が全国大会に出場した。 ○アルバイト経験をとおし、社会性を身につけていく生徒が多い。また、インターンシップや長期休業中のアルバイト就業事業に参加した生徒は、自信を得たり、自己の課題を認識するなど、多くの成果を得ている。	○環境目標を達成するための具体的実践に努め、省資源・省エネルギー・SDGs（持続可能な開発目標）に関する意識が高まっている。 ○授業や学級活動、生徒会活動、学校行事等にそれぞれの生徒が積極的に関わっている。 ○アルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組み、進路選択の一助とするとともに、コミュニケーション能力や自己肯定感が高まる生徒が増えている。 ○卒業までにアルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組んだ生徒の割合が80％以上である。	○「TEASⅡ」を適切に運用しながら、環境美化に配慮した実践やエコ活動の推進等を率先して行う。 ○学校行事や【緑チャレ】をとおして、部活動、生徒会活動の活性化を図る。 ○委員会の活動内容を示し、生徒会執行部が中心となり主体的に企画運営できるように支援する。 ○担任や教育相談部と連携して情報を共有しながら、生徒個々の状況に合わせ、アルバイト、インターンシップのいずれかを原則2年次終了までに体験するよう推進する。			
	集団への適応力の育成	○〔鳥取緑風高校は、自分にとって安心して通える学校だ。〕に肯定的回答した生徒の割合は91.8％である。 ○生徒面談前にhyper-QU研修を行い、結果をクラス経営に活用している。また、ユニバーサルデザイン（UD）を学習環境や授業に取り入れ、「わかりやすい授業」の展開に努めている。 ○SCによる定期面談実施、SSWの校外機関への訪問・連携、担任の家庭訪問同行等を実施し、生徒状況等の把握に努めている。 ○問題行動等に対しては、保護者連絡等をこまめに行うことで、校内外の連携を密にしながら生徒指導に取り組んでいる。	○〔鳥取緑風高校は、自分にとって安心して通える学校だ。〕に肯定的回答した生徒の割合が80％以上を継続している。 ○年2回実施するhyper-QUにおいて、強い孤立感や孤独感が示唆されている生徒の数に顕著な改善がみられる。	○【緑風ハートフル】などの活動をとおして他者とのかかわり合い、人間関係づくりを促す。 ○担任とSC、SSWとの協力によって家庭訪問や校外専門機関との連携を強化し、生徒の人間関係作りを支援する。 ○ひきこもり傾向の生徒に対しても、定期的な家庭訪問等の適切なかかわりを粘り強く継続する。 ○hyper-QUや生徒実態把握の結果を生徒面談やクラス経営に積極的に活用する。			
業務改善の取組	時間外勤務時間の縮減	○時間外業務時間月45時間以上の者はいない。 ○会議は1時間以内に終わるよう取り組んでいる。 ○学校行事等により長時間勤務となる時期がある。	○業務の削減、簡素化、見直しを行い、業務が効率的に行われる。 ○関係者間で情報共有されることで組織的対応を可能とし、年次有給休暇を取得しやすい環境となる。	○日ごろから教職員の業務内容や勤務状況を把握し、リフレッ週や、はよ帰らデーなどの取り組みを活用して、時間外業務縮減を継続する。 ○ICTを活用した情報共有を推進し、会議の効率化、業務の精選を意識した行動など、業務効率化を図る。（事前準備等） ○長期休業中、定期考査中の年休取得の呼びかけを行う。			